

第2回 聴覚補償研究会のお知らせ

初夏の候、皆様ご活躍のことと存じます。

私ども「聴覚補償研究会」は、以前「補聴器勉強会」の名称で、近畿地区の聴覚障害児・者の医療、福祉、教育、機器開発や販売に携わる者が中心となって構成し、年1回の勉強会を47年間実施してまいりました。

会の幅を広げる為、名称を改め、新しい研究会として活動を始めております。下記の要領で第2回聴覚補償研究会を開催いたします。

皆様お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

<講演会>

日時：令和3年6月27日(日) 14:00~17:25

場所：オンライン

参加費：1,800円

<プログラム> (各演題質疑込みで60分)

14:00 開会挨拶

14:10 講演1 「人工内耳の早期両耳装用について」

井脇 貴子 先生(愛知淑徳大学)

15:15 講演2 「聴覚補償の到達点と展望」

→「最近の人工内耳の話題」 *訂正してお詫び申し上げます。

山本 典生 先生(京都大学)

16:20 講演3 「最近の補聴器事情」

舘野 誠 氏 (日本補聴器工業会)

17:25 閉会挨拶

なお、開催日から1週間はzoomで録画データを公開いたします。

リアルタイムで参加できなかった方は、そちらをご利用ください。

公開のURLは、イベント終了後、申込時のメールアドレスにお送りします。

<アブストラクト>

井脇 貴子 先生

1994年に本邦で初めて小児に人工内耳が臨床されて以降、小児においては装用者数の増加と低年齢化の傾向にある。2014年に適応条件が1歳以下、両耳装用にも拡大されて以降、現在ではほとんどのケースが両耳同時手術になっている。また、デジタル補聴援助システムの助成も整備されてきており、幼稚園入園前からロジャーを両耳に使用する人工内耳装用児も増加している。これらの装用児達の、ひと昔前とは異なった現状を報告するとともに、今後の課題についても考察していく予定である。

山本 典生 先生

人工内耳は1983年に世界で初めて多チャンネル型の製品が上梓されて以来、40年近くが経過して、現在は世界では74万人が装用し、日本でも1万数千人が装用しています。この間に、適応の拡大、様々な症例への対応方法の開発などが行われ、適応の決定の際にも、いろいろな要素を考慮する必要が生じています。本講演では、最近の人工内耳医療のトピックスをお話することにより、人工内耳のもつ可能性について皆様に知っていただきたいと思っております。